

令和4年度第6回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和5年2月16日（木）午前9時30分～午前10時35分

ところ：市役所6階 大会議室（WEB会議）

1 出席者

小平市社会教育委員 10人
傍聴者 なし

2 内容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について（報告）

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和5年二十歳の集いについて（報告）
- (2) 第40回小平市中学校生徒意見発表会について（報告）
- (3) 第19回小平よさこいスクールダンスフェスティバルについて
- (4) 第16回多摩六都ヤング・ダンスフェスティバルについて

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（1月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（3月）について

【図書館】

- (1) 第43回ふるさとの新聞元旦号展について（報告）
- (2) 小平市中央図書館 インドアオリエンテーリングについて（報告）

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 資料No.7のオール公民館まつりの中に高校生事業企画委員会とあるが、委員の構成と、募集の方法、時期や、活動状況を伺いたい。

図書館は、オリエンテーリングが新しい試みで面白いと思った。これを企画したきっかや意図、今後定例的にやっていくのか。

○事務局 公民館では、全館で事業企画委員会を組織して講座の企画をお願いしている。令和3年度、公民館運営審議会、または各館の事業企画委員からの声として、若い人の声を聞きたいという要望をいただき、令和4年度から試行的に高校生に、若い考え方として事業企画をお願いできないかと取組を開

始した。

構成は、白梅学園清修中高一貫部の高校生、創価高校の高校生、それぞれ生徒会や有志の方にお声がけして、担当の先生方と昨年4月、5月ぐらいから12月ぐらいまで複数回会議を重ねてきた。今回その中の企画の一つとして、白梅学園清修中高一貫部の生徒がマゼンタ・スターという取組みについて講演をする。また、創価高校の発案では、地域の皆さんとの交流を目的とした地域清掃を令和5年度から実施したいということで、今現在企画している。市内には、高校は全部で7校、都立3校、私立4校あるので、そのほかの高校については先月から今月頭にかけて、次年度から参加いただけるよう全校挨拶に行き、返事を待っている状況。

○事務局 各地の図書館で、図書館オリエンテーリングという名称の事業は行われている。内容は、特定のテーマの資料を探すレファレンス的な事業として多く行われている。

今回、地図教育をテーマに実施した。このような形式は、海外の図書館で行われていたので、参考にして行った。今回、参加された方からは好評の声をいただいている。休館日に開催したが、休館日でも図書館の通常の業務が多々あるので、調整しながら行ったがタイムスケジュールの設定がかなり難しかった。定例的に行うのは難しいが、レファレンス的な要素も取り入れるなど、スタイルを変えて取り組んでいくことはできるか考えている。

○委員 資料No.3の中学校生徒意見発表会に、協力団体の青少対代表者協議会会長として、審査委員で出席した。作文自体もすばらしい内容で、発表の態度もすばらしかった。原稿を暗記して、大分訓練されたと、先生方の指導の賜物だと思うが、大変すばらしいものであった。これが最後でとても残念に思った。小・中学生広島平和学習の目的、子どもたちが実際に広島を訪問して平和の意義について考える。また、ひまわりの78ページ、学習に参加された方が「実際に、平和記念式典が行われる場所へ行ってみると、言いようのない感覚に襲われました。」とコメントしている。感じ方はいろいろだが、実際に現場に行って体感したことが、この事業のとてもすばらしい成果だと思っている。また引き続き行われることに感謝する。

○委員 インドアオリエンテーリング、頑張っってスピードを争うのもいいが、楽しみながら館内をゆくり見回るといふ二つの楽しみ方がある。バーチャルな環境が多い中で、リアルだからこそ館内を楽しみながら歩くという初めての試みのような気がした。VR、ARを駆使して、何か楽しみ方を見つかるのもいいと思った。

公民館の防災の講演会に参加した。地域レベルで防災教育に取り組む団体は結構あるが、社会教育としてのモデルとなるこういった防災教育、減災に取り組む具体的な事例が地域は少ない。改めて数値を交えた事例を基に教えてもらったことはすごくいい機会だった。最後に、地域コミュニティと社会教育の防災についてというテーマでお話されていた。社会教育、核家族世帯や単独世帯、高齢化社会になった中で地域防災という観点で、地域での学習プログラムの開発疑似体験、ワークショップでの教育のファシリテーターの育成が大事だと思っている。

○委員 資料No.2の二十歳の集いについて、オンライン配信やアーカイブ配信を今年もしていただいた。当日はいろいろな事情で参加できない方もいるので、式典を見ることができるとは大変ありがたい。

資料No.9のインドアオリエンテーリングについて、新しい取組、すごく楽しそうだったと思うが、準備も大変だったと思う。募集内容と応募状況を教えてほしい。

○事務局 初級コース、上級コースとも30人枠で公募した。初級コースは、小学生や中学生の参加も期待していたが、館内のタイムスケジュールの関係で開始時刻を15時15分に設定した。平日で学校があることを考えれば16時ぐらいに設定できればよかったが、やむを得ずこの時間にせざるを得なかったため応募が少なかった。

上級コースは90人近く応募をいただき、抽せんで30人が参加した。

○委員 高校生事業企画委員会の話があったが、結構大学が関わっているところがあるので、来年度とは言わないが、大学生事業企画委員会があるといいと思った。

図書館の楽しいイベント、日程のことなどいろいろ出ているが、小平バージョンを作れないかと思う。普通のスタンプでいいので、例えば、小学校、中学校の夏休み企画とか、成人の部とか、一日のうち何回かに分けて、地図に親しめる目玉のイベントになるといいと思った。

○事務局 あえて高校生にしている。大学については既にブルーベリーリーグで連携を図っていて、パイプができていることから、今小平市に一番パイプが細い高校生の連携を公民館から発信してもいいのではと考えた。また、高校生から関わると、卒後もOB・OGとしてその企画に参加してもらっていいと伝えているので、大学生になっても、また大学を卒業して就職しても参加できるという形で、若いうちから公民館に関わっていただけるように考えた。この理屈は小学生にも考えていて、公民館まつりではNゲージの展示が行われるが、今既に仕掛けをして、毎月1回程度Nゲージの展示をして、小学生のボランティア、小・中学生のボランティアグループが組織されて、小学生・中学生から関わるようになっているので、これからはどんどん若い子たちが関われるようにしたいと思っている。

他方、大学生については、令和5年度に向けては、講座で武蔵野美術大学に協力をいただく予定になっている。その中では、先生だけでなく学生にも活躍していただくことも想定しているので、様々な方に公民館に関わっていただけるように今後も取り組んでいきたい。

○事務局 オリエンテーリングに今回初めて参加した初級の方々には、開始前に地図の読み方の講習を行ったが、こういったことが小平バージョンになっていくと考える。本来オリエンテーリングは屋外で行うものだが、館内で行うことで、天候に左右されずに安全に実施でき図書館の本を探すレファレンス的な要素なども付加できるとおもしろい発展性があると考えている。

○委員 今回、スクールダンスフェスティバルを3年ぶりに開催していただき、学校現場として感謝を申し上げる。このコロナで発表の場を失い、集まって練習することすらかなわない、そんな状況の中で、小平市を挙げて、さらに、また学校現場、小平よさこいに元気と、そして追い風を送っていただけるとありがたい。

中央図書館のオリエンテーリングに大変興味を持った。初級コースがどんなことをするのか。小学生を対象としたイベントとして、各図書館で行っていただけたら、子どもたちが楽しく地図に親しめたり、また、地図を読むスキルをアップしたりということがあると思う。

○事務局 今回、初級コースは階段の上下移動を少なくし、地下1階から1階、2階へと順番にゆっくり進むコースで、一部を迷路状にして、楽しんで回れる部分も設けた。地図には迷路のどこが通れるかも書いてあるので、最初の講習で地図の読み方のコツを押さえた上で参加していただいた。

中央図書館以外の図書館での開催は、施設の規模が小さくコースの設定が難しい面もあるが、機会があれば、児童・生徒が参加しやすい企画を考えたい。

○委員 資料No.3の中学校生徒意見発表会は今年度で終わるということで、とても残念に思っている。中学生が広い会場でみんなの前で発表する、とてもいい経験だと思う。もし終わるとしても、何かそれに代わるようなものが何かあるのか。

資料No.6、公民館のタイムリー講演会で、地域の防災力の向上には女性や子どもの力が重要と書いてあるが、子どもの力というところで、どういったことが子どもたちにできるのか。

○事務局 中学校生徒意見発表会、これに代わるものとして、社会を明るくする運動の作文集ひまわり、これは直接発表ではないが、意見を表明する機会一つと考えている。また、東京都でも応募をされていて、選ばれれば意見を発表する場はある。また、今はソーシャルメディアなど様々、意見発表の機会はあるということで、今回、一区切りということ。

○事務局 タイムリー講演会の子どもの力について、次代を担う防災教育ということで、小さいときから安全に対する意識を植え付けていくことが必要、自ら行動するという意識と対応力を身につけることが重要、成長の段階に応じて繰り返し教育していくことが重要、市長部局や教育委員会との連携が必要、ということがポイントとして示され、その効果としては、いつでもどこでも誰でも防災に対応できる力を育てることができる、また、児童・生徒だけでなく保護者や地域を巻き込む効果もある、とお示しいただいた。したがって、小さいときから、そういった防災教育を進めることは大切です、というお話だったと受け止めている。

○委員 東京の地域教育の中で、学校におけるヤングケアラーの支援ということが話題になっていたが、実際問題として、小平市ではどんな状況なのか。

○委員 ヤングケアラーの問題について、学校として実態調査をしているということはまだない。ただ、保護者と学校は非常に近い関係にあり、そういった実態について、また、就学援助の申込みをしている家庭は、しっかりと財政的な援助を市からいただいていると思うが、母親が一人で子育てをしていたり、または父親が一人で子育てをしていたり、またはご両親が病気で、どちらかが入院して大変な中でやっているなどという状況は、学校としてもできる限り丁寧につかんでいきたいと思っている。ただ、組織的に、このヤングケアラーに関しての対応は、各校、現場の力に委ねられている部分が大きいのではないかと考えている。